

# コメント Comments

## 愛媛大学共通教育科目と「歩き遍路」の試み “The Shikoku Pilgrimage on Foot” as a trial General Education course at Ehime University

寺内 浩  
Terauchi Hiroshi

### 1、愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会と大学教育

愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会は、四国遍路の研究とその国際比較を目指して2000年度に結成された。2001年度には愛媛大学公開講座「四国遍路と世界の巡礼」を開催し、2003年度以降は毎年秋に公開シンポジウム（公開講演会・研究集会等）を開催している。

一方で、研究成果の教育への還元にも取り組み、2001年度後学期には共通教育総合講義「四国遍路と世界の巡礼」（「文化と社会Ⅱ」）を12名の教員による連続講義として行った。そして、2005年度より共通教育創生授業「遍路を歩く」を開始し、今年で7回目となる（担当教員は法文学部内田九州男教授・総合健康センター佐伯修一教授。今年から内田教授に替わり寺内が担当）。

### 2、授業内容

共通教育「遍路を歩く」の授業内容は、四国遍路の基礎知識を学ぶ講義とウォーキング実習・歩き遍路からなる。今年の例をあげると以下の通りであり、講義9回、ウォーキング実習・歩き遍路4回、オリエンテーション・まとめ2回である。ウォーキング実習では、元競歩選手の忠政啓文氏を招き、長距離を歩く心構えや具体的な歩行方法を学んでいる。

- ① オリエンテーション
- ② ウォーキング実習Ⅰ
- ③ ウォーキング実習Ⅱ
- ④ 講義：遍路の作法
- ⑤ 講義：遍路の願い
- ⑥ 講義：遍路の装束
- ⑦ 講義：近世・近代の遍路
- ⑧ 歩き遍路1日目（三坂峠～大学、約23km）
- ⑨ 歩き遍路2日目（JR宇和島駅～明石寺、約23km）
- ⑩ 講義：空海の生涯Ⅰ
- ⑪ 講義：空海の生涯Ⅱ
- ⑫ 講義：古代中世の四国遍路Ⅰ
- ⑬ 講義：古代中世の四国遍路Ⅱ
- ⑭ 講義：サンチャゴ巡礼
- ⑮ 授業のまとめ、レポート集の作成・製本

今年の歩き遍路1日目は、三坂峠から大学までの23km余を歩いた。天候は晴れで、最高気温が28℃もあり、暑さのため学生はややバテ気味であった。最初に三坂峠の急坂を下り、あとは平道であった。三坂峠を下ったところに旧遍路宿の「坂本屋」があり、接待を受けた(写真1・2)。46番浄瑠璃寺、47番八坂寺、杖の淵公園、48番西林寺、49番浄土寺、50番繁多寺、51番石手寺をまわり、大学がゴールとなった。

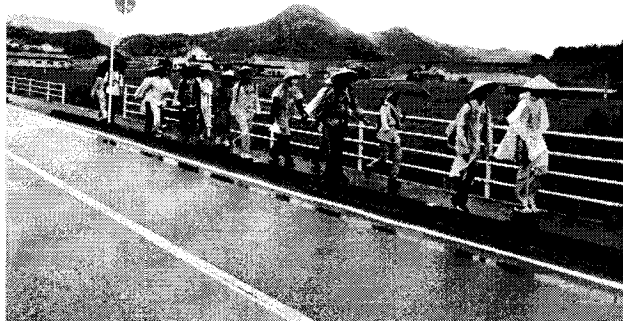


(写真1)



(写真2)

2日目は、JR宇和島駅から明石寺まで23km余を歩いた。午前は雨、昼過ぎから曇であった。出発地から10km弱はゆるい登り道で、41番龍光寺、42番佛木寺の前後5kmはのどかな田園地帯が続く(写真3)。急坂の歯長峠を越え、約5km歩いてゴールの43番明石寺に到着した(写真4)。前日の疲れが残る中での雨中の歩行、さらに最後に待ちかまえていた歯長峠の急な坂道は学生にとってかなり厳しかったようである。しかし、今年は途中で伴走車に助けられた者はなく、全員が最後まで歩ききることができた。なお、参加学生は、1回生17名、2回生5名、3回生2名、4回生1名であった。



(写真3)



(写真4)

### 3、授業の目的

愛媛大学共通教育のカリキュラムは以下のような「学士基礎力」の育成を目的としている。

- (1) 自らの個性や適性に基づき学び続ける姿勢（基本姿勢）
- (2) 多様な人と協働するためのコミュニケーション力(基本的なコミュニケーション力)
- (3) 学習活動や社会生活に必要な技能や表現力（基本技能）
- (4) 多角的な視点を培うのに必要な幅広い基礎知識（基礎知識）
- (5) 問題の発見・解決に取り組むための思考力（基本的思考力）

この「遍路を歩く」の授業の到達目標は次の三つで、遍路文化を知識・実践の両方で学ぶとともに、それらを通して共通教育の目的を達成することをめざしている。

- (1) 四国遍路の歴史を知る
- (2) 「歩き遍路」を体験し、その意味について思考できる
- (3) 「歩く」ことの意味を説明できる

### 4、授業アンケートとレポートより

授業の達成度をみるために、授業最終回に以下のようなアンケートを実施した（歩き遍路参加学生25名中回答者23名）。また、授業を振り返ってのレポートを提出させた。これらより、今回の授業を振り返ってみたい。

質問1 今回の授業（講義・実習と歩き遍路）でなにか得るものがありましたか。

- |               |          |
|---------------|----------|
| ①大いに得るものがあった  | 4 (17%)  |
| ②得るものがあった     | 18 (78%) |
| ③あまり得るものはなかった | 1 (4%)   |
| ④全く得るものはなかった  | 0        |

質問2（質問1で①②と答えた方へ）

今回の授業で得たものは何ですか（複数回答可）

- |  |          |
|--|----------|
| ①知識（四国遍路についてのさまざまな知識を得た）                               | 16 (29%) |
| ②体力・健康についての認識（体力向上・健康管理が必要であることを認識した）                  | 9 (16%)  |
| ③チャレンジ力（物事にチャレンジしてみようという気持ちが強まった）                      | 6 (11%)  |
| ④忍耐力（最後まであきらめない気持ちが強まった）                               | 15 (27%) |
| ⑤コミュニケーション力（人と会話をしたり、仲良くなることができるようになった。あるいはその必要性を認識した） | 7 (13%)  |
| ⑥新たな人生観（物事に対する見方が変わった、自分の人生を見つめ直すことができた、など）            | 2 (4%)   |
| ⑦その他   | 1 (2%)   |

授業評価の回答は①「知識」が最も多く、9回の講義によって四国遍路についての知識は身についた

ようである。次に多いのが④「忍耐力」で、二日で約50kmを歩くのは多くの学生にとって初めての経験であり、苦しくともあきらめなければ目標を達成できるということを経験したことによるものであろう。レポートにも「二日間の実習を通して私は、何事もあきらめなければ必ずできるということを学びました」とある。③「チャレンジ力」という回答が多いのも同様の理由であろう。「何とか最後の寺の本堂で手を合わせた時に、今まで感じたことのない充実感と大きなことをやりきったという達成感を味わうことができました。」「どうにか最後の明石寺に到着した。その瞬間、言葉にできないほどの達成感と脱力感を感じた。」など、レポートで多くの学生が「達成感」を味わうことができたとしているのも、苦勞して目標を達成したときの喜びを表したものであろう。また、②「体力・健康についての認識」が多いのは、逆に歩き遍路を行ったことにより体力不足や健康管理の必要性を認識したためであろう。

⑤「コミュニケーション力」が多いのは、まる二日間にわたって集団行動をとったので、人と接する機会が多かったことが関係していよう。しかしそれだけではなく、歩き遍路という学生にとって過酷な体験がその必要性をもたらしたようである。レポートに「一人で黙々と歩くのではなく、談笑しながら一緒に歩く人がいることで、気持ちの面で何倍も楽しく歩くことができた。」「時間が経つにつれ、今まで話したことのない人とも話すことができ、歩くのを楽しむことができました。」「友達とお互いを励ましあいながら上りました。」とあるのはそうしたことを示していよう。参加学生の大半が入学したばかりの新1回生なので、全く面識がない者同士がコミュニケーションをとる機会をこの授業が与えたことになろう。

この他レポートでは、お接待について、「しばらくすると最初の休憩所の坂本屋に到着しました。そこで初めてお遍路の魅力の一つを実感することができました。それは人とのふれあい。坂本屋の人はとても優しくお疲れさんという風に私たちを迎えてくれて、感謝の気持ちがあふれ出してきました。ここもまたお遍路さんのいいとこだなと感じました。」「坂本屋ではたくさんのお接待をしてもらいました。ほんとうにこういうことをしてくれるんだなとびっくりしました。」など、はじめてお接待を受けた驚きと感動が記されている。また、「遍路ではつらいことだけではなく、楽しいこともあった。それは、一般の遍路を歩いていた人達に出会えたことだ。お昼ご飯を食べているとき、話しかけてきたのは、私の祖母と同じくらいの年齢の女性だった。非常に気さくな方で、楽しい時間が過ごせた。」「歩いていて感じたのが、人の温かさである。お寺で会う人会う人が私たちに声をかけてきて頑張れとエールを送ってくれた。」「どこから来たのですか、がんばってくださいね、など言葉を頂いた時すっと疲れが取れたかの様に思えました。」など、見知らぬ人とのふれあいも貴重な経験になったようである。

レポートには、「遍路道で見かけた、「人生は遍路なり」という言葉も、この峠を歩ききって、その通りだと思った。」「2日間の歩き遍路を通して、身体的にも精神的にも身体が一皮むけた気がします。」「この遍路を通して自分は、何かを一生懸命成し遂げるといい経験を得ることができました。」「2日間の遍路を終えてなんだか心が広くなったような気がしました。」などの記述もある。教室での講義に加えて二日で約50kmを歩くという学生にとっては負担の大きい授業ではあったが、教育効果は十分にあったと評価できるであろう。